

平成17年10月14日

各位

会社名 伊藤忠テクノサイエンス株式会社
代表者名 代表取締役社長 奥田 陽一
(コード番号 4739 東証第1部)
問合せ先 コーポレートコミュニケーション部長 藤原 隆
(TEL 03-6203-5000)

平成18年3月期中間期業績予想（連結及び単体）の修正に関するお知らせ

平成17年4月27日付「平成17年3月期 決算短信（連結）」および「平成17年3月期 個別財務諸表の概要」において発表いたしました平成18年3月期中間期（平成17年4月1日から平成17年9月30日まで）の連結および個別の業績予想について、下記のとおり修正いたします。

記

1. 平成18年3月期中間期の業績予想数値の修正

（1）連結業績予想

（百万円）

	売上高	経常利益	中間純利益
前回予想（A）（※1）	107,900	4,100	2,300
今回予想（B）	101,700	7,100	3,900
増減額（B-A）	▲ 6,200	+ 3,000	+ 1,600
増減率	▲ 5.7%	+ 73.2%	+ 69.6%
（ご参考） 前中間期実績	103,648	6,028	3,472

（2）単体業績予想

	売上高	経常利益	中間純利益
前回予想（A）（※1）	102,100	5,100	4,600
今回予想（B）	96,300	8,100	6,300
増減額（B-A）	▲ 5,800	+ 3,000	+ 1,700
増減率	▲ 5.7%	+ 58.8%	+ 37.0%
（ご参考） 前中間期実績	97,418	5,887	4,626

（※1）平成17年4月27日に発表したもの

2. 修正の理由

当中間期の業績見通しにつきましては、情報通信システム事業、金融システム事業の堅調な推移により、第2四半期の受注高がほぼ前年同期並みの見込みとなるなど、後半にかけて受注状況が回復してまいりましたが、売上高は、主にエンタープライズシステム事業の未達の影響により計画を下回る見通しです。

利益につきましては、不採算案件の減少に加え、保守サービスの収益が堅調に推移したことにより、売

上総利益率が計画水準を上回る見込みです。また、販売費および一般管理費につきましては、開発案件の増加に対応して採用活動の強化と派遣社員の増員を図りましたが、中間期の計画に対しては下回る見通しです。この結果、営業利益は計画を上回る見込みであり、さらに営業外収益も好転したことから、経常利益、当期純利益は計画比、前年同期比ともに上回るものと見通しております。

3. 平成 18 年 3 月期通期の業績予想

平成 18 年 3 月期通期につきましては、期初の見通しを据え置きました。

中間期末の受注残高は、前年同期を上回り高水準となる見込みですが、中間期の売上高が計画未達で終わる見通しであることから、通期の売上計画達成には一段の営業努力が必要と認識しております。また、利益につきましては、経常利益、当期純利益ともに中間期の計画を達成する見通しであり、下期も引き続き採算性の維持・強化に努め、通期計画の達成に邁進してまいります。

(ご参考)

(1) 平成 18 年 3 月期連結業績予想

(百万円)

	売上高	経常利益	当期純利益
通 期	265,000	20,000	11,000

(2) 平成 18 年 3 月期単体業績予想

	売上高	経常利益	当期純利益
通 期	251,400	14,900	9,500

※平成 17 年 4 月 27 日に発表したもの

以 上

※上記予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。